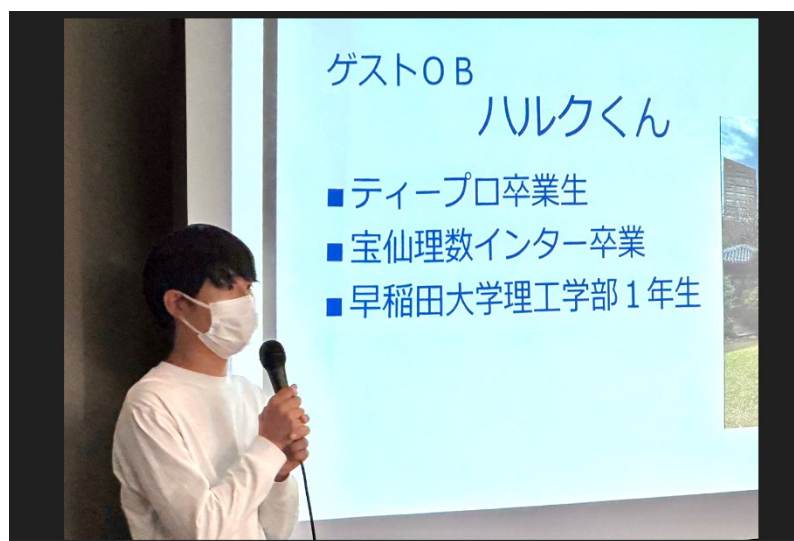


3人目は、ティープロHPの「卒業生便り！」に登場してくれた「ハルク」くんである。フィリピンご出身のご尊母と日本人のご尊父を持つ。生まれた時から家庭内は英語で、ご尊父だけが日本語だったという。宝仙の6年間は特待生であった。早大理工学部に学び、将来は情報技術者を目指すという。
(彼の6年間の充実ぶりは、別途「卒業生便り！」をご高覧ください)

この日は、ハルク君たちが在学中、懇切丁寧な面談指導や添削指導をしてくださった宝仙学園の先生方もお越しいただいていた。改めて彼らから先生方への感謝の言葉も送られた。



4人目の「Yくん」はティープロの卒業生ではない。中学を卒業後、単身で中国から留学してきた。高校入学時は日本語は全くできなかったという。親から離れ、アパートの一人暮らし。衣食住をすべて一人で賅ったという。その結果、3年間で日本語の会話は見事に克服し、この春、東京工業大学（24年から東京科学大に名称変更）に現役合格を果たした。富士先生からY君の話しを伺い、香取が特別にお願いして出席してもらうことになった。敢えてご両親が試練として与えた孤独と闘った彼の経験談も参加者の強い興味を惹いた。



第2部では、中高生を対象とした英語塾の代表の方をお招きし、慶應医学部、慈恵医大医学部、順天堂大学医学部の英語入試問題の分析会が開かれた。

会の最後に、香取からゲストへ、また参加者の方々への感謝の言葉が贈られた。宝仙学園様には、このような素晴らしいお力添えを賜り、塾としては誠に光栄である。生徒たちの未来を一緒に見つめ、フォローしていくという点では塾も学校も志は同じである。厚かましいようではあるが、これからも宝仙学園様のお力をお借りして生徒やご父母とともに研鑽し合っていく企画を続けていきたい。

***この日の講演の内容について、宝仙学園HPの富士晴英先生のブログでご紹介いただきました。**

<https://www.hosen.ed.jp/blog-ghs/nyushi/45723/>

